

趣旨説明

西岡 千文（国立情報学研究所）

図書館総合展フォーラム

「多様化するOAの実現手段とその評価」

2022年11月14日

フォーラム概要

1990年代後半以降、研究者、図書館、出版者等のステークホルダーがそれぞれの動機に基づいてオープンアクセス（OA）の推進に取り組んでおり、OAの実現手段は多様化している。実現手段の評価の試みは実施されているが、被引用数など利用についての指標が目立つ。研究図書館にはOAに取り組む動機として購読料の高騰すなわち金銭的な課題があったが、この点に注目した実現手段の評価は乏しい。本フォーラムは、OAの実現手段とその評価についての課題を共有することで、OAの将来を探る機会とする。

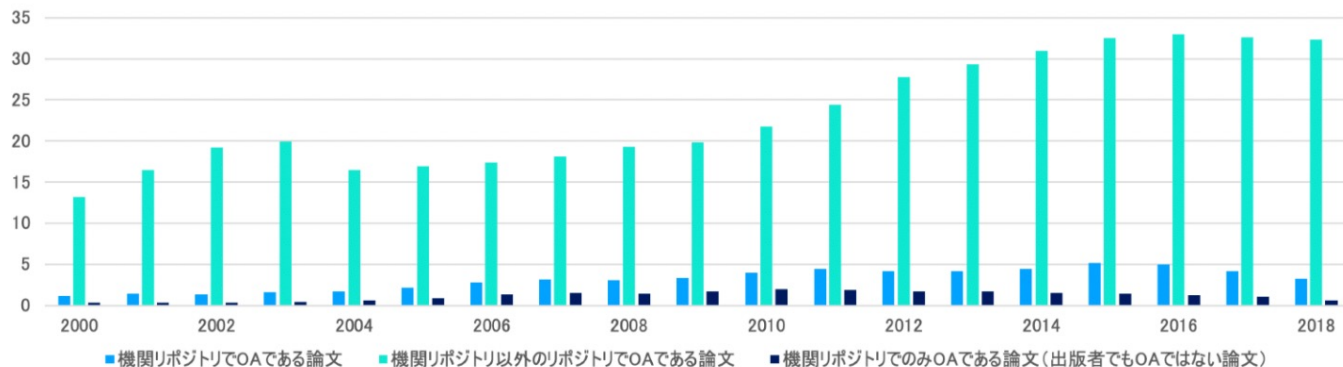
オープンアクセス運動の契機・目的

ステークホルダ	契機・目的	OAに取り組むことによって左記の目的が達成されると考える理由
研究図書館	購読料高騰への対抗 → 金銭的コストの維持あるいは削減	グリーンOA <ul style="list-style-type: none"> 必要最低限の経費で研究成果の公開できる（転覆計画）。 ゴールドOA <ul style="list-style-type: none"> 購読料モデルと比較して、競争原理が働きやすくなる。また、価格感応度が高い。
研究者	研究成果の迅速・自由な共有の実現 → 研究成果のインパクトの増加	Paywallがなくなれば、利用は増加すると想定される。
商業出版者	OA出版による新たなビジネスチャンスの獲得 → 利益の獲得	「多くの論文を出版したい」という研究者の要望に沿って、学術雑誌を刊行できる。 <ul style="list-style-type: none"> メガジャーナル カスケード査読 ハゲタカジャーナル
政府・助成機関	OA運動の高まり → 公的資金による研究の説明責任	Paywallがなくなれば、誰でもアクセスすることができ、説明責任を果たせる。

「ステークホルダ」「契機・目的」については、[佐藤 13]より一部抜粋

グリーンOAの課題

- 研究者への負担
 - 共著者の同意を取得し、著者最終稿を提出する必要がある
 - 『転覆計画』（1994年）から20年後のStevan Harnadへのインタビュー「研究者は自分ではやらないことがわかったので、もし今『転覆計画』を行うなら研究者ではなく、その所属機関や助成機関に呼びかける」[Poynder, 14]
- 出版者版（Version of Record）と著者最終稿（AAM）の違い
 - 機関リポジトリでの公開が許諾されているのは多くの場合著者最終稿であり、出版者版ではない
 - 研究者は出版者版を好む [Lucraft et al. 21]
 - ただし、実際にはテキストにほとんど差異はない [Klein et al. 16]
- エンバーゴ期間により即時OAとならない



機関リポジトリで公開されている論文の割合は約5%

出典：[西岡 21]

商業出版者を通じたOA

著者は論文処理費用（APC）を支払うことで論文をOAで公開する。

OAジャーナル：全ての掲載論文・記事がウェブ上で公開されており、無料でアクセス可能かつ再利用が許可されている学術雑誌。基本的にAPCを支払う必要がある。

ハイブリッド誌：APCを支払うことでOAでの論文の公開を選択できる購読型雑誌。

各著者による商業出版者へのAPCの支払



- ✓ 個人単位での取り組みの限界（スケールアップを目指す）
- ✓ （ハイブリッド誌に対する）二重取り（double dipping）への批判
- ✓ 研究者の手間

一括契約

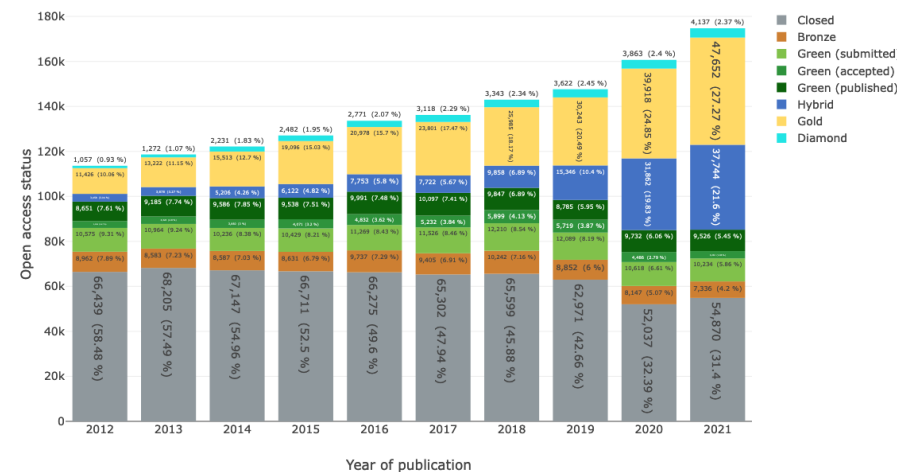
• 転換契約

• Subscribe to Open（S2O契約）

- c.f. S2O Community of Practice

<https://subscribetoopencommunity.org/>

図はコンソーシアムでの転換契約を行っているドイツの論文のOA状況の推移を示す。近年ハイブリッドの割合が急増していることがわかる。



<https://open-access-monitor.de/>にて作成

図書館のOAへの取り組みの動機

- 購読料高騰への対抗 → 金銭的コストの削減あるいは維持
- グリーンOAの場合
 - 必要最低限の経費で研究成果の公開ができる。

リポジトリへ登録される著者最終稿の割合は低い

- ゴールドOAの場合
 - 購読料モデルでは代替財はないが、APCを支払うモデルでは代替財があるため、競争原理が働きやすい。「学術雑誌Aが高額で閲覧できないから学術雑誌Bで代替する」とはならないが「学術雑誌Aでの出版は高額だから学術雑誌Bで出版する」ということはあり得る。
 - 購読料モデルでは消費者（研究者）と購入者（図書館）が異なることから、価格感応度が低くなっていた。APCを支払うモデルは消費者と購入者が一致していることから、価格感応度が高くなる。

一括契約は研究者の支払いの手間を削減できる一方、上記の期待を薄くしてしまうのではないか？

転換契約はいつまで続くのか？（Plan Sでは2024年末とされていた完全OA化の期限が撤廃された [船守 20]）

OAの実現手段の評価

ステークホルダ	契機・目的	OAに取り組むことによって左記の目的が達成されると考える理由
研究図書館	購読料高騰への対抗 → 金銭的コストの維持あるいは削減	<p>グリーンOA</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要最低限の経費で研究成果の公開できる（転覆計画）。 <p>ゴールドOA</p> <ul style="list-style-type: none"> 購読料高騰
研究者	研究成果の迅速・自由な共有の実現 → 研究成果のインパクトの増加	<p>Paywall</p> <p>さらに、グリーン、ゴールド等の比較が行われている</p>
商業出版者	OA出版による新たなビジネスチャンスの獲得 → 利益の獲得	<p>「多」の要望</p> <ul style="list-style-type: none"> メガジャーナル カスケード査読 ハゲタカジャーナル
政府・助成機関	OA運動の高まり → 公的資金による研究の説明責任	Paywallがなくなれば、誰でもアクセスすることができ、説明責任を果たせる。

「ステークホルダ」「契機・目的」については、[佐藤 13]より一部抜粋

OAの実現手段の評価

ステークホルダ	契機・目的	OAに取り組むことによって左記の目的が達成されると考える理由
研究図書館	購読料高騰への対抗 → 金銭的コストの維持あるいは削減	グリーンOA <ul style="list-style-type: none"> 必要最低限の経費で研究成果の公開できる（転覆計画）。 ゴールドOA <ul style="list-style-type: none"> 購読料モデルと比較して、競争原理が働きやすくなる。また、価格感応度が高い。
研究者	研究成果の迅速・自由な共有の実現 → 研究成果のインパクトの増加	Paywallが定さ
商業出版者	OA出版による新たなビジネスチャンスの獲得 → 利益の獲得	「多 の要 <ul style="list-style-type: none"> 旧来からの大手商業出版者はゴールドOA、ハイブリッドOAで出版を行うことにより、利益を上げている （一方、比較的新しい出版者や中小の出版者は苦しんでいる）
政府・助成機関	OA運動の高まり → 公的資金による研究の説明責任	Paywallが ことができ、説明責任を果たせる。

「ステークホルダ」「契機・目的」については、[佐藤 13]より一部抜粋

OAの実現手段の評価

ステークホルダ	契機・目的	OAに取り組むことによって左記の目的が達成されると考える理由
研究図書館	購読料高騰への対抗 → 金銭的コストの維持あるいは削減	グリーンOA <ul style="list-style-type: none"> 必要最低限の経費で研究成果の公開できる（転覆計画）。 ゴールドOA <ul style="list-style-type: none"> 購読料モデルと比較して、競争原理が働きやすくなる。また、価格感応度が高い。
研究者	研究成果の迅速・自由な共有の実現 → 研究成果のインパクトの増加	Paywallがなくなれば、利用は増加すると想定される。
商業出版者	OA出版による新たなビジネスチャンスの獲得 → 利益の獲得	「多くの論文を出版したい」という研究者の要望に沿って、学術雑誌を刊行できる。 <ul style="list-style-type: none"> メ ナ ・ OAで出版される論文の割合は増加している
政府・助成機関	OA運動の高まり → 公的資金による研究の説明責任	Paywall ことか 近年、ゴールドOA、ハイブリッドOAの伸びが顕著である

OAが目的化してしまっているのか？

「ステークホルダ」「契機・目的」については、[佐藤 13]より

OAの実現手段の評価

ステークホルダ	契機・目的	OAに取り組むことによって左記の目的が達成されると考えられる理由
研究図書館	購読料高騰への対抗 → 金銭的コストの維持あるいは削減	<p>グリ ・ さ ゴール ・ 財 債 高</p> <p>?</p> <p>総コストの把握の難しさ [佐藤 10] (購読料 + α等の図書館が支出するコスト、APC等の研究者が支出するコスト)</p>
研究者	研究成果の迅速・自由な共有の実現 → 研究成果のインパクトの増加	Paywallがなくなれば、利用は増加すると想定される。
商業出版者	OA出版による新たなビジネスチャンスの獲得 → 利益の獲得	<p>「多くの論文を出版したい」という研究者の要望に沿って、学術雑誌を刊行できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メガジャーナル ・ カスケード査読 ・ ハゲタカジャーナル
政府・助成機関	OA運動の高まり → 公的資金による研究の説明責任	Paywallがなくなれば、誰でもアクセスすることができ、説明責任を果たせる。

「ステークホルダ」「契機・目的」については、[佐藤 13]より一部抜粋

フォーラムの構成

- 佐藤翔氏（同志社大学）「転換契約の動向とコスト妥当性」
 - Plan S等海外の転換契約に関する動向
 - 転換契約に関する議論とコスト妥当性
- 小野亘氏（東京大学）「リポジトリコミュニティがOAで果たす今後の役割」
 - オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）運営委員・次期 JAIRO Cloud移行タスクフォース/JAIRO Cloud作業部会主査
 - 研究図書館が管理するOAチャンネルとしてリポジトリ
 - グリーンOAの推進 → 出版プラットフォームとしてのリポジトリの可能性
- 設樂成実氏（京都大学）「ダイヤモンドOA誌出版のコストとスキル」
 - 京都大学東南アジア地域研究研究所の刊行する学術雑誌の編集を担当
 - ダイヤモンドOA誌出版の実際
 - 学術雑誌の出版に要するコストとスキル

参考文献

- ◆ Klein, M., Broadwell, P., Farb, S. E., & Grappone, T. (2016). Comparing published scientific journal articles to their pre-print versions. In JCDL 2016, (pp. 153-162).
- ◆ Lucraft, M., Allin, K., & Batt, I. (2021). Exploring researcher preference for the version of record.
- ◆ Poynder, R. (2014). The Subversive Proposal at 20.
<https://poynder.blogspot.com/2014/06/the-subversive-proposal-at-20.html>
- ◆ Suber, P. (2004) Guide to the Open Access Movement.
https://dash.harvard.edu/bitstream/handle/1/4728920/suber_oamguide.htm
- ◆ 佐藤翔. (2010). オープンアクセス出版は費用・便益とも購読出版より優れているか? JISC 報告書 『代替学術出版モデルの経済的影響: 費用と便益調査』 の意義と問題点. 情報管理, 53(7), 359-369.
- ◆ 佐藤翔. (2013). オープンアクセスの広がりとは現在の争点. 情報管理, 56(7), 414-424.
- ◆ 西岡千文 & 佐藤翔. (2021). Unpaywall を利用した日本におけるオープンアクセス状況の調査. 情報知識学会誌, 31(1), 31-50.
- ◆ 船守美穂. (2020). 動向レビュー：プランS改訂版発表後の展開—転換契約等と出版社との契約への影響. カレントアウェアネス, No. 346.